

BAKP 基本機能取扱説明書 (HD => HD)

ウィンドウズXPを丸ごとBAKPする説明書です。
取扱説明書(BAKP.TXT,BAKPHD.TXT,BAKPMBR.TXT等)もお読み下さい。
拡張機能については、拡張機能取扱説明書を参照下さい。

この説明書について

・ 作者が作成したソフト

表記部分については画面キャプチャー等を行い分かりやすく記載致しました。

・ それ以外の部分（OSの機能、ハードウェア操作等）

テキストによる説明のみとなります。

この部分については、私の作成した物では有りませんので、サポートに限界が有ります。

不明の点は、OS又はハードウェア製造メーカーのサポートにお問い合わせ下さい。

・ 注意事項

この説明書に誤記等が有る場合でも保証は致しかねますのでご了承下さい。作者に瑕疵が有る場合でも保証は出来ません。ご利用になる方自信が内容のチェックの後ご利用下さい。

この説明書の構成

「1．はじめに」「2．初めてのBAKP」、「3．定期的に実施しましょう」、「4．復旧」「5．失敗談」の5節で構成されています。

この説明書記載事項は、作者環境での内容です。

1．ウィンドウズXPプロフェッショナル

2．「第一ドライブの第一パーティションC：」から

「第二ドライブの第一パーティションD：」へBAKP

する場合を基準に解説しています。

ご利用の環境により、ドライブ番号その他が異なる場合があります。

十分な注意の上、各自の環境に読み替えてご利用下さい。

なお、この環境以外では、作者環境と異なるため確認が出来ません。サポート出来ない場合がありますのでご承知置き下さい。

この説明書はBAKP1.16を基本に一部を最新版のBAKPキャプチャ画像に更新したものです。

一部異なるバージョン・OSの物が混ざっていますがご了承下さい。

(c)Kuni 2007/08

1 . はじめに

BAKPに当たって

- ・「2 . 初めてのBAKP」、「3 . 定期的に実施しましょう」、「4 . 復旧」と実施し、BAKPによるバックアップ及び復旧が確実に出来ることを事前に確認しておくことと安心です。
- ・先ドライブの書込エラーが発生した場合は、その先ドライブは「2 . 初めてのBAKP」(初期化)から行って下さい。
- ・「4 . 復旧」を実施したドライブを先ドライブとして利用する場合、その先ドライブは「2 . 初めてのBAKP」(初期化)から行って下さい。

PBR問題・MBR問題

領域確保及び初期化を元ドライブのOSで行い、「MBR問題を自動解決する」にチェックを入れてBAKPした場合、標記の問題は発生しませんが、何らかの問題が発生した場合の解決の為、添付のBAKPPBR.TXT, BAKPMBR.TXTに目を通しておくことをお勧めします。

注意事項

- ・ハードウェア及び作者開発以外のソフト
ハードウェア及び作者開発以外のソフトについては、作者が自己の環境で動作確認をして記載していますが、完全な説明は困難ですし、説明に勘違いや間違いが含まれる可能性が有ります。
操作に当たっては、OSの説明書や解説書等をお読みになり安全確実に「自己責任」で実施してください。
また、これらについては、詳細なサポートは出来ませんのでご承知置きください。
- ・DOS起動FDの準備
ウインドウズXP等は、OS起動時に自分自身の起動ドライブ以外の「起動可」フラグを解除するという、迷惑な機能を持っているようです。
解除されていると、先ドライブからウインドウズが起動出来ません。
解除されたフラグを戻して起動可とするため、FreeDOS/VやウインドウズME等の起動フロッピー又は同フロッピーのブータブルCDを準備しておく事を強くお勧めします。
- ・USBドライブ利用に当って
BAKxシリーズをご利用の方から「USBドライブ上で初期化したHDへの復旧で支障が出る」とのレポートを頂き下記の様な説明(「古い取扱説明書抜粋」を参照)を記載していたのですが、最近購入したUSB-IDE変換箱を利用して実験したところ、USBのまま初期化したHDを利用した場合でも問題なくBAKPからの復旧が出来ました。
なお、これは私の環境でのみの確認です。レポートを頂いた方の様にUSBで復旧に支障が出る場合も考えられますので、確実に期す場合は「事前に復

旧試験等ごで確認」又は「I D Eで初期化したH DをU S Bに取付」して下さい。

参照：B A K xシリーズ落書帳又はその過去ログを参照下さい

URL = <http://bakw.sub.jp/rakubakz/>

[1919] USBドライブへのB A K P その2

[1902] USBドライブへのBAKP

参照：初期化方法の詳細は、下記U R Lを参照下さい。

URL = <http://bakw.sub.jp/help/>

エトセトラ

注意：特殊機能の有るU S B - H D Dは、ファイルの保存方式がウィンドウズ標準と異なるようで、本プログラムでの先ドライブとしては適合しません。U S B - H D Dを選択になるときは、標準I D Eと互換性のある記録方式の物をご利用下さい。

注意：U S B - H D Dを開いて内部のH D Dを取出す行為は、メーカー保証外の行為となります。

この件に関して問題が発生した場合でも、作者としては一切保証は出来ません。

あなたご自身の責任の元に、安全・確実に作業を行って下さい。

古い取扱説明書抜粋

・U S Bドライブ利用の注意 [重要]:

以下は、システムドライブの場合です。

データドライブの場合は、読飛ばして下さい

- 1.先ドライブの初期化は、必ず起動ドライブと同じインターフェイスに接続して実施して下さい。
- 2.バックアップ時にU S Bを使うことが出来ますが、その場合でも初期化は、H D自体をI D EやS C S I等、現在の起動ドライブと同じインターフェイスに接続して初期化する必要が有ります。
- 3.初期化完了後は、U S Bに戻してO Kです。

- ・この説明書は、バックアップツールB A K Pをご利用頂く皆様の参考の為に作成したものです。この説明書は、B A K P動作の一例を示すにすぎません。バックアップ時は、必ずB A K Pに添付されている各種取扱説明書も併用して下さい。
 - ・この説明書に間違いが有る場合の保証は有りません。作者に瑕疵が有る場合でも、同様に一切の保証は有りません。
 - ・この説明書記載事項の複製及び転用を禁止します。
 - ・特に、B A K P先ドライブは全て上書き更新及び元ドライブに無いファイルは削除されます。取扱説明書を熟読し間違いの無いようご利用下さい。
 - ・この説明書に添付している画面キャプチャーは、B A K P 1.16 ~ 1.18で作成したものです。
- また、ウィンドウズ画面はクラシックスタイルで画面をキャプチャーしました。バージョンやご利用の環境により一部異なる部分が有るかと思いますが、臨機応変にご覧下さい。

2 . 初めての B A K P

先ドライブの準備 (H D の初期化)

- ・バックアップするに十分な容量のハードディスク (複写先ドライブ) を、計算機に取付けます。

I D E の場合は、プライマリ・スレイブ 又は セカンダリ・マスタ等空いている所に取付けて下さい。

参考 : ノートパソコンの様に 1 台しか H D を取付けられない環境では、H D を交換した後の初期化措置をウインドウズ起動用 F D 又はインストール C D のブート機能を使って行う必要があります。この場合は G U I では無く C U I になります。C U I 環境に慣れない方には大変かと思いますが、頑張ってください。

なお、以下の説明はウインドウズ起動ドライブと同一のインターフェイスに先ドライブ用の H D を取付けた場合の G U I 操作について説明しています。

- ・必要に応じて B I O S に新ドライブを認識させます。

重要 : かつて元ディスクから B A K P の拡張機能を行った事の有る先ディスクで下記二項目のどちらかに該当するディスクを先ディスクとして接続する場合。

- ・取外保管モードを実施した事の有るディスク
- ・常時接続モードのディスクで、復旧操作 (BAKPRES3) を実施した事の有るディスク

ウインドウズ起動前に、「N T シグニチャ」のクリヤが必須となります。残っていると下記の症状やその他のトラブルの元となります。

(<http://support.microsoft.com/default.aspx?kbid=249321>)

N T シグニチャを削除するのは簡単です。削除する該当ハードディスク (**先ディスク**) 一台だけ取付けた状態で、F r e e D O S / V 又はウインドウズ M E 等のフロッピーを起動し

FDISK /MBR [Enter]

と打込んで下さい。(元ディスクをクリヤしないよう注意！)

なお、[Enter]は文字のとおり打込むのではなく、[Enter]と書いて有るキーを打って下さい。

右図参照



参考 : N T シグニチャを削除しておくこと、新規のデバイスとして認識されません。

説明 : B A K P の拡張機能では、N T シグニチャも同一になる様バックアップします。同一の N T シグニチャのディスクが接続された状態でウインドウズを起動するのは、「危険」です。

- ・プライマリ・マスターの元ドライブ（C：）からウィンドウズNT / 2000 / XPを起動します。

- ・管理者権限でログインして下さい。

- ・ディスクの管理ツールを起動して下さい。

管理ツールの起動方法

ウィンドウズ NT 4 . 0

「スタート」	右クリック	注意！「右」です
「開く-All Users」	左クリック	
「プログラム」	左ダブルクリック	
「管理ツール」	左ダブルクリック	
「ディスクアドミニストレーター」	左ダブルクリック	

ウィンドウズ 2000 / XP

「マイコンピュータ」	右クリック	注意！「右」です
「管理」	左クリック	
「ディスクの管理」	左クリック	

- ・新ドライブに既存の領域が有る場合は、一度全ての領域を解放します。

- ・新ドライブに「基本領域」を確保し「初期化」します。

領域は、元ドライブと同容量又はそれより大きな容量を確保します。

- ・初期化は、NTFSで行って下さい。

FAT、FAT32でもOKですが、ファイルシステム上の制限等の為、お勧めできません。FAT、FAT32は、ファイルシステムの制限等を自己解決出来る方のみご利用下さい。

- ・初期化完了後、引続きディスク管理ツール上で該当ドライブを右クリックし、新ドライブを「アクティブ」(起動可能)にします。[重要]

注意：先ドライブの「圧縮は無効」にして下さい。

NTLDR等が圧縮されると、ウィンドウズが起動出来ません。

注意：先ドライブは、ベーシックディスクとしてご利用下さい。ダイナミックディスクはサポート対象外です。

注意：領域の開放や初期化によりドライブの内容は全て消去されます。

大切なデータは、事前に待避して下さい。

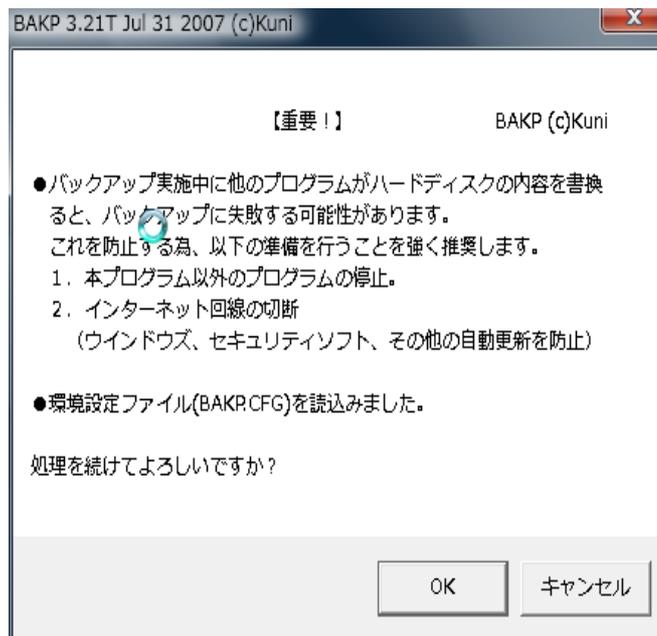
参考：バックアップするドライブがデータドライブの場合は、拡張領域でもOKです。またその場合は、起動可能にする必用は有りません。

再起動

- ・動作の確実を期すため、計算機を再起動してください。
- ・管理者権限でOSにログインして下さい。

テストバックアップ

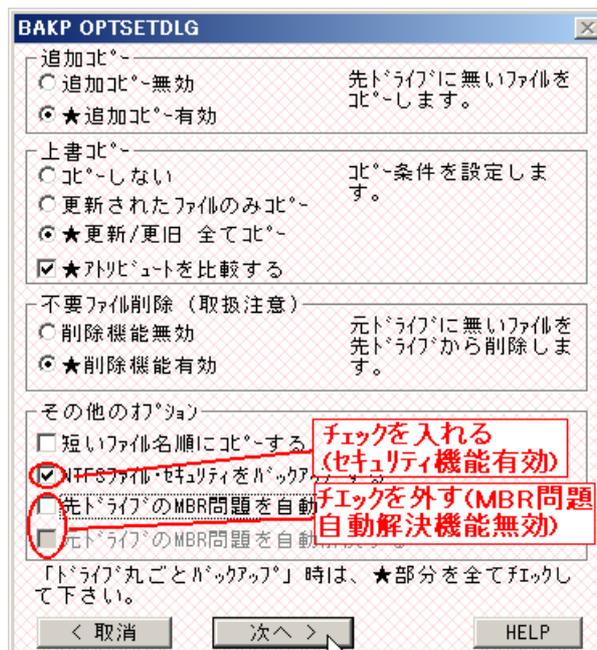
- ・ B A K P を起動します。



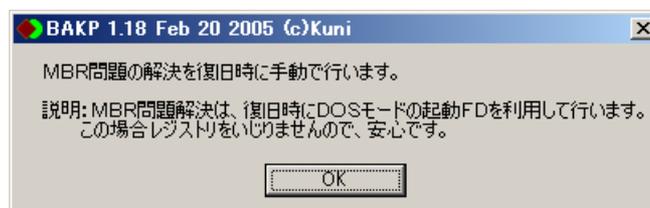
- ・ 注意事項及び環境設定ファイル読込確認メッセージが表示されますので、確認の上OKをクリックして下さい。
- ・ このメッセージは環境設定ファイルにより非表示にする事が出来ます。
- ・ 「5 . 失敗談」もご覧下さい。



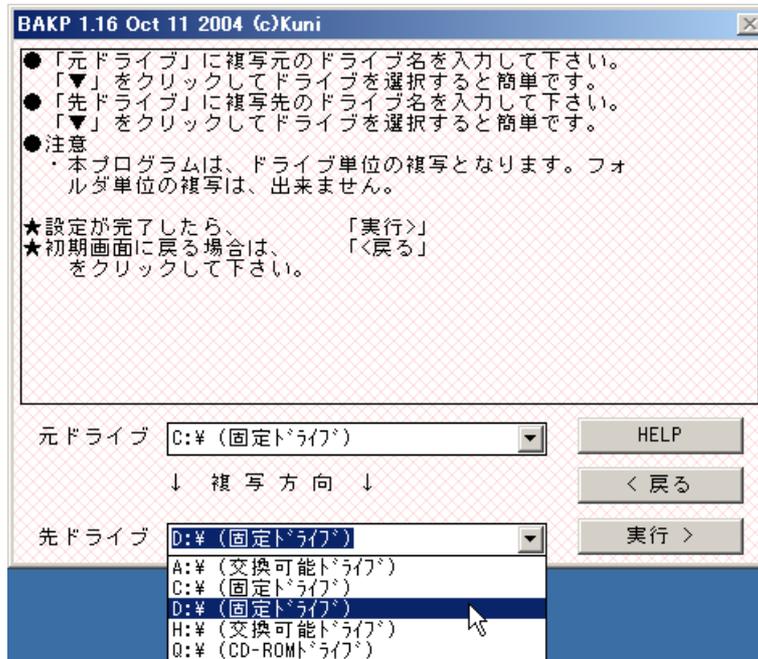
- ・ 主画面が表示されたら「基本機能 開始 >」ボタンをクリックして下さい。



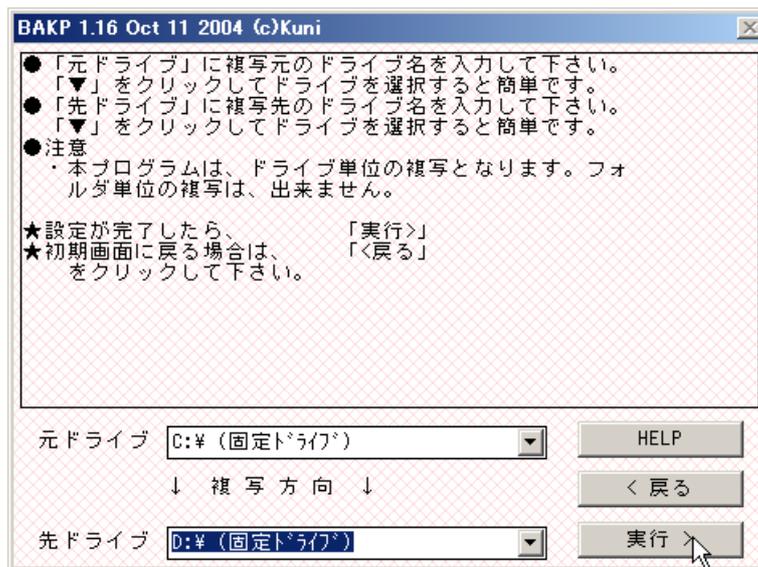
- ・ オプションの設定画面が表示されます。
- ・ オプションを上記の様に設定してください。
赤字説明のチェックを確認してください。
- ・ 確認後よろしければ「次へ>」をクリックして下さい。
- ・ 説明：テストは「MBR問題を自動解決する」の機能を無効にした状態でバックアップを実施し、BAKPの動作が正常に行われることを確認します。



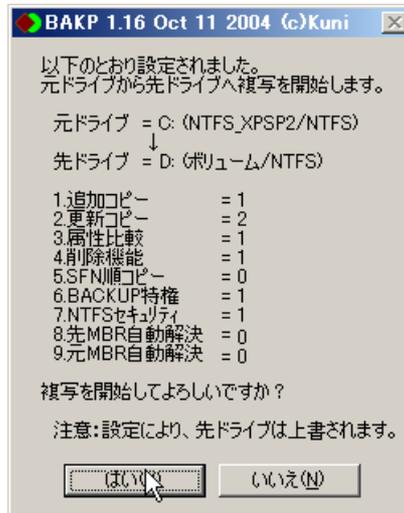
- ・ なお、MBR問題自動解決機能のチェックを外す折に上図の様なメッセージが表示されます。



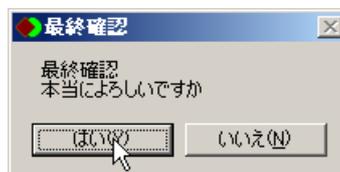
- ・ドライブ選択画面が表示されます。
元ドライブ及び先ドライブを選択して下さい。
ドライブ番号を間違えると取り返しがつきません。十分確認して下さい。



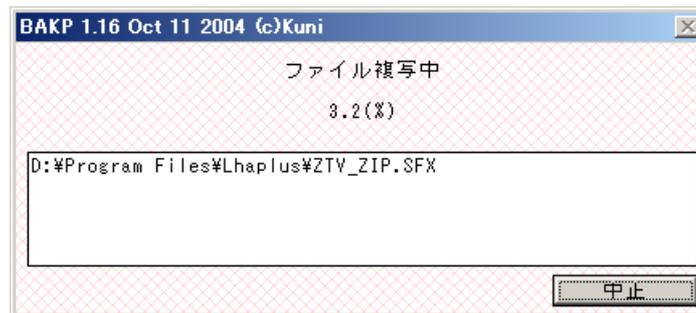
- ・ドライブ番号を再確認し、問題が無ければ「実行>」をクリックして下さい。
注意：ドライブ名を間違えると悲惨な事になります。十分な確認をお願いします。
注意：ここでは、C : から D : へのバックアップを行っていますが、各自の環境によりドライブ番号が異なる場合があります。各自の環境に合わせ間違わないようにドライブを設定して下さい。



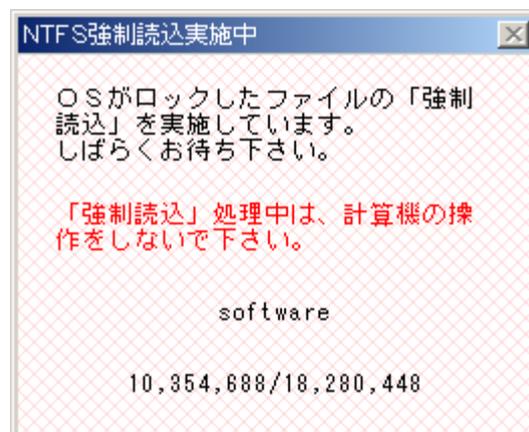
- ・ 確認画面が出ますので、問題がなければ「はい」をクリックして下さい。



- ・ 最終確認画面が表示されます。再度確認の上、問題がなければ「はい(Y)」をクリックして下さい。



- ・ ファイルの複写が始まります。しばらくお待ち下さい。



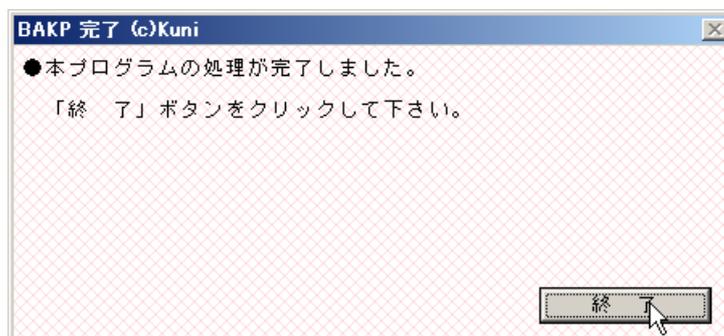
- ・ OSがロックしているファイルバックアップ中は上記の様なメッセージが表示されます。表示中は特にパソコンの操作をしないで下さい。



- ・試用では、このようなメッセージが頻繁に表示されます。正式登録後は、このメッセージの大部分は抑制されます。



- ・ファイルの複写が完了すると引き続き「セキュリティデータベース」の作成が始まります。そのままお待ち下さい。



- ・BAKPが無事完了すれば、「2.初めてのBAKP」は大成功です。ご苦労様でした。
- ・説明：この状態でバックアップ先ドライブからの起動試験を行う場合は、FD起動のDOSモード等でMBR問題を解決する必要があります。

- ・ 確認

管理ツールを起動し、先ドライブが「起動可」になっているか確認して下さい。
「起動可」になっていない場合は、訂正して下さい。

3 . 定期的に実施しましょう

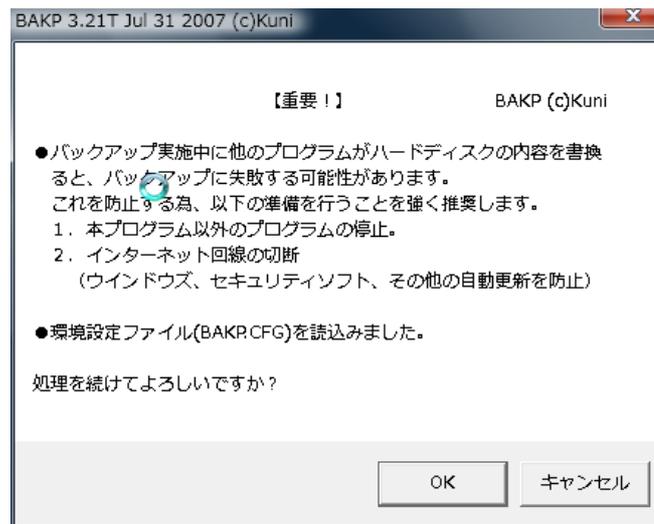
定期的なバックアップ

- ・「2 . 初めてのバックアップ」が正常に実施できた方のみこちらにお進みください。問題が出た方は、問題が出ないように解決してください。
- ・定期的にこの項目「3 . 定期的に実施しましょう」を行ってください。

再起動

- ・動作の確実を期すため、計算機を再起動してください。
- ・管理者権限でOSにログインして下さい。

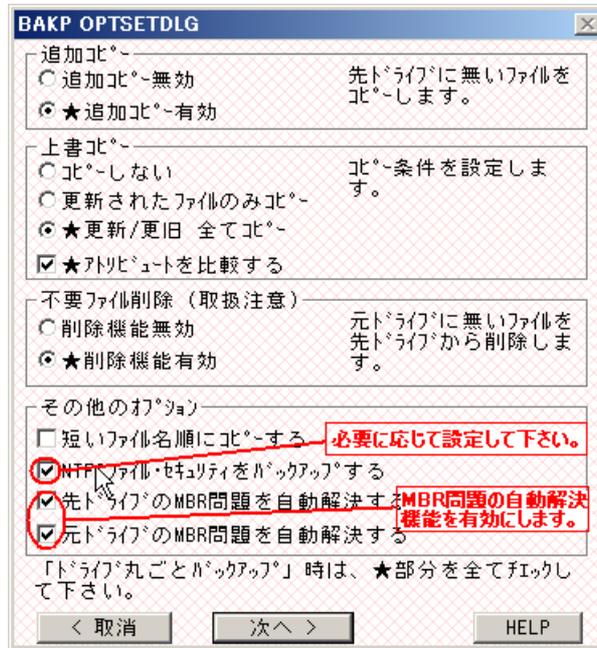
BAKPを開始します。



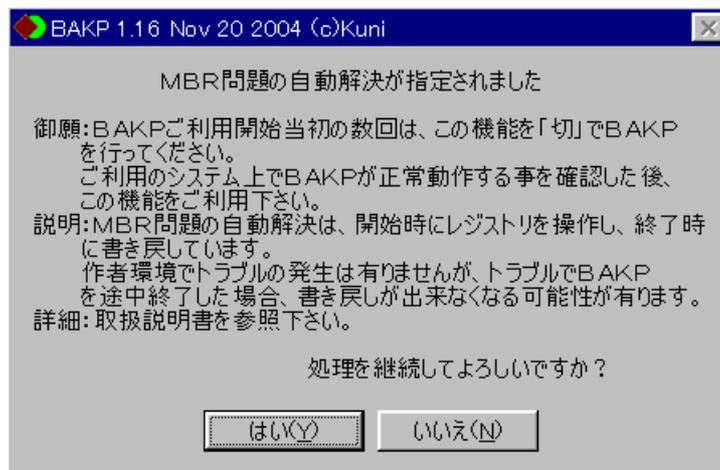
- ・注意事項及び環境設定ファイル読込確認メッセージが表示されますので、確認の上、OKをクリックして下さい。
- ・「5 . 失敗談」もご覧下さい。



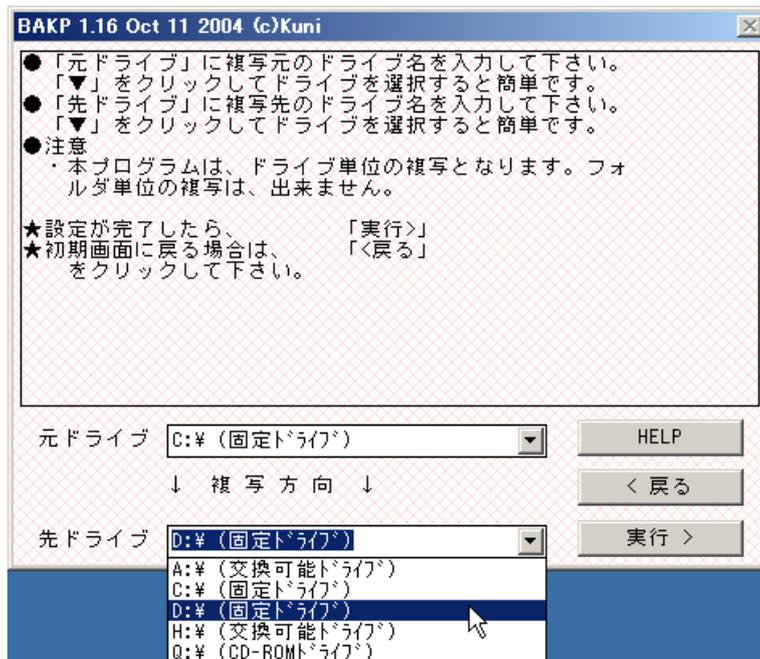
- ・BAKPを起動します。
「基本機能 開始 >」ボタンをクリックして下さい。



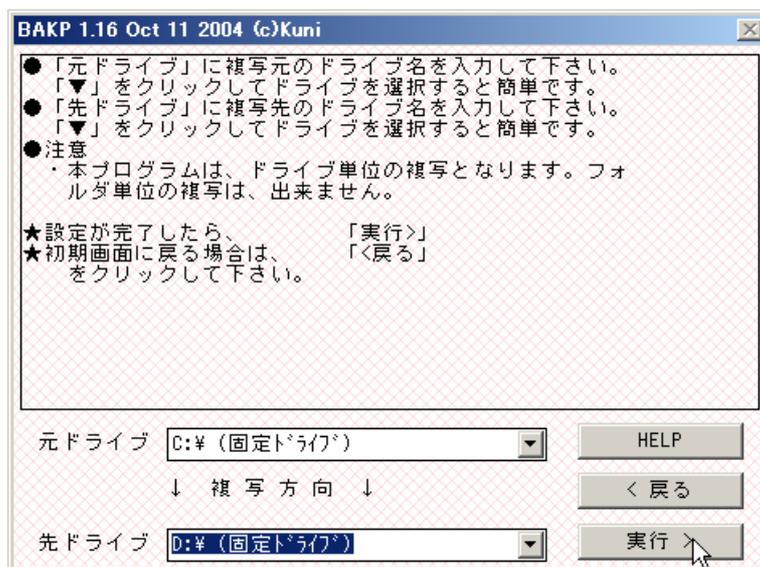
- ・ オプションの設定画面が表示されます。
- ・ 赤字を参考にオプションをセットして下さい。
- ・ オプション確認後、よろしければ「次へ >」をクリックして下さい。



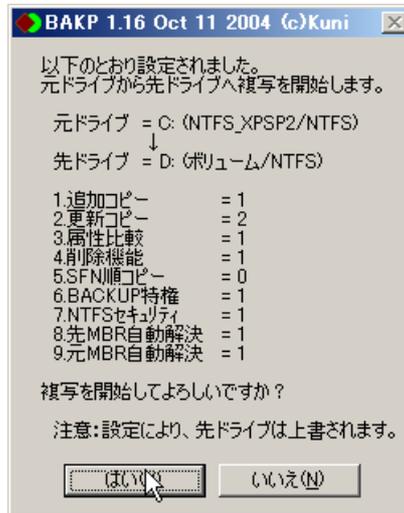
- ・ M B R 問題の自動解決をする場合の、注意事項が表示されます。



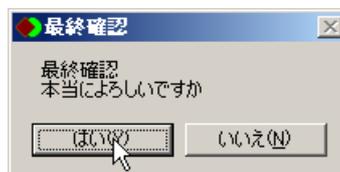
- ・ドライブ選択画面が表示されます。
元ドライブ及び先ドライブを選択して下さい。
ドライブ番号を間違えると取り返しがつきません。
間違の無い様、十分確認して下さい。



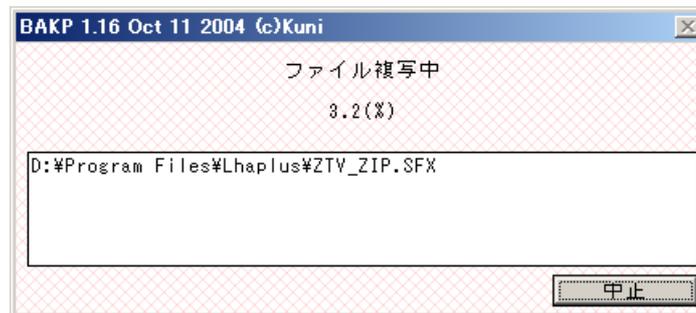
- ・ドライブ番号を再確認し、問題が無ければ「実行>」をクリックして下さい。
注意：ドライブ名を間違えると悲惨な事になります。十分な確認をお願いします。
注意：ここでは、C：からD：へのバックアップを行っていますが、各自の環境によりドライブ番号が異なる場合があります。各自の環境に合わせ間違わないようにドライブを設定して下さい。



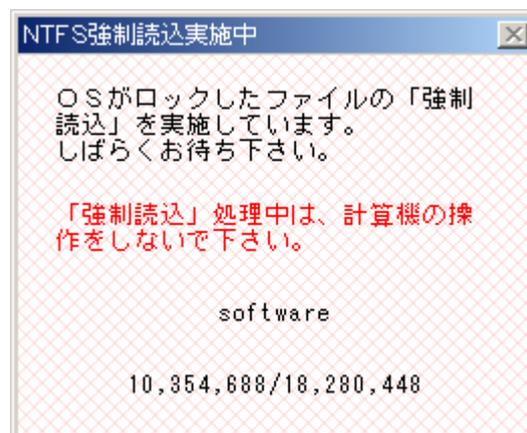
- ・ 確認画面が出ますので、問題がなければ「はい」をクリックして下さい。



- ・ 最終確認画面が表示されます。再度確認の上、問題がなければ「はい(Y)」をクリックして下さい。



- ・ ファイルの複写が始まります。しばらくお待ち下さい。



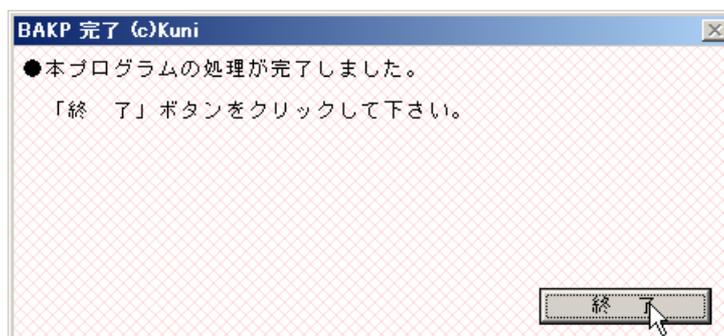
- ・ OSがロックしているファイルバックアップ中は上記の様なメッセージが表示されます。表示中は特にパソコンの操作をしないで下さい。



- ・試用では、このようなメッセージが頻繁に表示されます。
正式登録後は、このメッセージの大部分は抑制されます。



- ・ファイルの複写が完了すると引き続き「セキュリティデータベース」の作成を行います。そのままお待ち下さい。
(ファイルセキュリティのバックアップを指定しない場合、この処理は省略されます)



- ・BAKPが無事完了しました。
ご苦労様でした。

- ・ 確認
管理ツールを起動し、先ドライブが「起動可」になっているか確認して下さい。
「起動可」になっていない場合は、訂正して下さい。

参考

- ・ 起動オプション：
/NOTKN 又は /特権無 とすると、SE_BACKUP_NAME 特権を取得しません。
- ・ 「MBR問題を自動解決する」にチェックを入れて B A K P して下さい。
M B R 問題が発生しないため、復旧時の手数が軽減されます。
このオプションを無効にして B A K P した場合は、復旧時に M B R 問題の解決を行って下さい。
- ・ ファイルセキュリティの設定されたドライブを B A K P の先ドライブとして利用する場合は、初期化が必要となります。
複写先ドライブで書込エラーが発生する場合は「2 . 初めての B A K P 」の手順に従い、初期化してからご利用ください。

4 . 復旧

復旧用語の意味及び注意事項

- ・元ドライブ
破損等により、利用しなくなった保存元のドライブ。
- ・先ドライブ
B A K Pでドライブ内容を保存されたドライブ。
- ・F D
フロッピーディスク

データドライブの復旧

- ・接続しているバックアップ先ドライブを、そのままご利用下さい。
- ・N T F S ファイルセキュリティ復旧
B A K P実施時に「N T F Sのファイル・セキュリティをバックアップする」というオプションをセットしてバックアップした場合は、復旧ドライブのルートにBAKPREST.EXE と BAKPDATA.BIN の2つのファイルが作成されます。
B A K P時にオプションをセットしなかった場合は、これらのファイルは作成されませんので、以下の処理は読飛ばして下さい。

N T F Sのファイルセキュリティを復旧する場合は

- 1 . 復旧ドライブのルートに有る BAKPREST.EXE を起動してセキュリティを復旧して下さい。
- 2 . セキュリティ復旧完了後、ご用済になった BAKPREST.EXE を削除して下さい。
- 3 . BAKPREST.EXE によりログ(BAKPRLOG.TXT)が作成されている場合は、ログをメモ帳等で確認の後、削除して下さい。

参考：ファイルセキュリティの復旧については、「システムドライブの復旧」にキャプチャー画像付きで説明してありますので、そちらもご覧下さい。

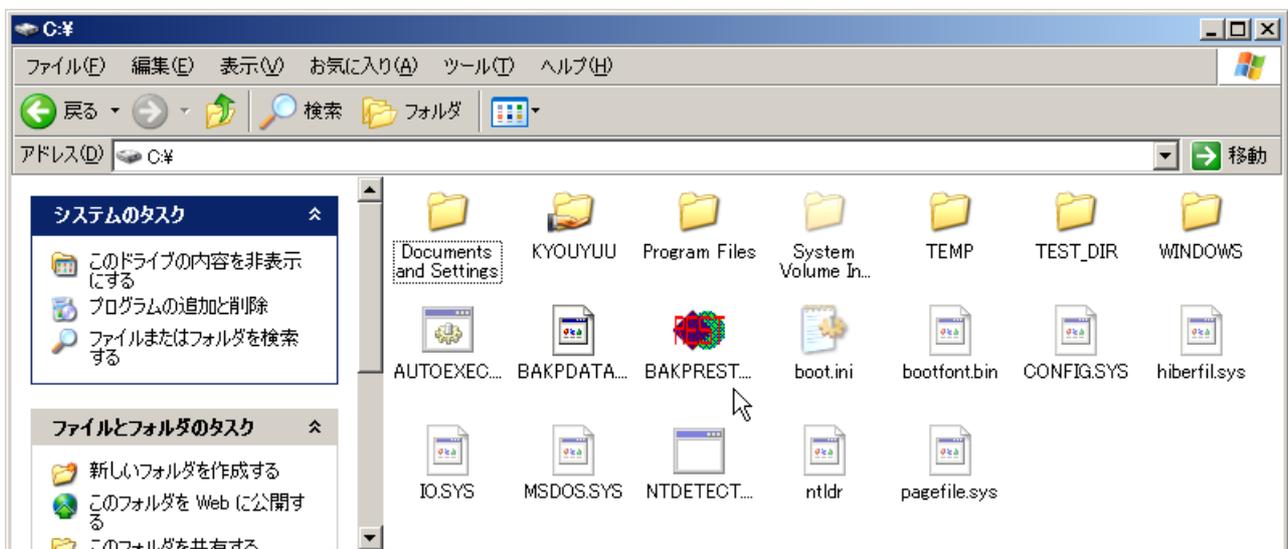
- ・N T F Sのファイルセキュリティの復旧が不要の場合
 - 1 . 該当ドライブのルートにある BAKPDATA.BIN BAKPREST.EXE を削除して下さい。

システムドライブの復旧

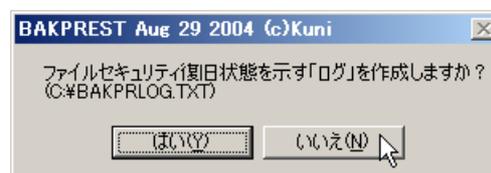
- ・破損した元ドライブ (C :) を取外します。
- ・先ドライブを起動ドライブとして取付けます。
プライマリ・マスタとして取付けて下さい。
S C S I 構成のハードディスクでは先頭ドライブとして取付け、SCSI-IDもオリジナルの元ドライブのIDを継承して下さい。
- ・推奨 起動ドライブ以外のドライブを全て取外して下さい。
- ・「PBR問題」の解決
ハードディスクをバックアップしたOSで初期化した場合は、通常この操作を行う必要は有りません。次行は読飛ばして下さい。
ハードディスクの初期化をバックアップしたOS以外で行った方は、「PBR問題の解決」が必要です。BAKPPBR.TXT 「PBR問題解決説明書」を参照し、問題を解決して下さい。
- ・「MBR問題」の解決
[MBR問題を自動解決する] のオプションを有効にして
B A K P した場合、特別な場合を除いてこの操作を行う必要は有りません。
次行は読飛ばして下さい。
[MBR問題を自動解決する] のオプションを無効にして B A K P した場合又はその機能が有効にならなかった場合は、BAKPMBR.TXT 「MBR問題解決説明書」を参照し、問題を解決して下さい。
- ・取替えたドライブでウィンドウズを起動します。
- ・ウィンドウズが起動すれば、ほぼ成功です。
ウィンドウズが全く起動する気配を示さない場合は、ドライブが「起動可」になっていない事が考えられます。その場合は、F r e e D O S / V を F D 起動し以下のコマンドを打ち込みアクティブにして下さい。
FDISK /ACTIVATE:1
F D I S K のオプション(特に赤字部分)については、ご利用の環境に合わせて設定して下さい。(FDISK /? とするとヘルプが表示されます)
なお、FreeDOS/V日本語版は、2007/07 時点で作者 H P 又は珠洲氏の H P から入手可能です。
- ・B A K P 最終措置 先ドライブのファイルセキュリティ回復
この処理は、バックアップ実施時のオプション設定で「NTFSファイル・セキュリティをバックアップする」にチェックを入れて B A K P をした場合のみ必用です。
チェックを入れなかった場合、次行から「・ファイル削除の確認」迄の処理は不要です。読み飛ばして下さい。



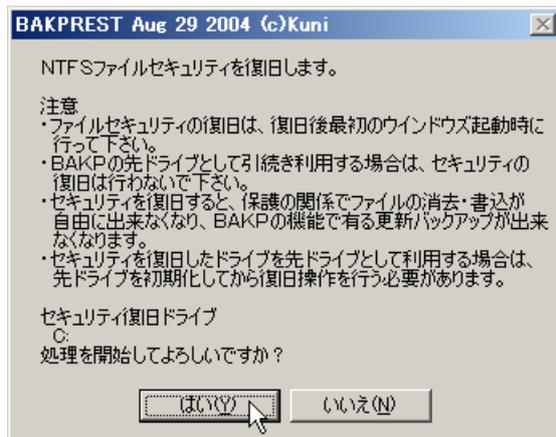
- ・マイコンピュータを起動します。
(起動方法は、ウインドウズの取扱説明書を参照下さい)
- ・C : ドライブ (復旧ドライブ) をクリックします。



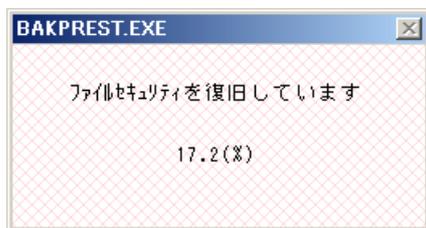
- ・C : ドライブ (復旧ドライブ) のルートフォルダに有る「BKPREST.EXE」を起動 (クリック) します。



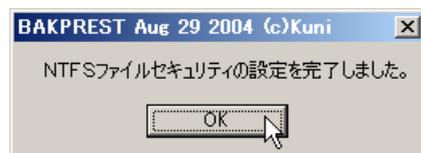
- ・ログを作成するかの問い合わせが有ります。
通常はログは不要ですので、「いいえ(N)」をクリックして下さい。
ログが必要な場合は、「はい(Y)」をクリックして下さい。



- ・ NTFSファイルセキュリティを復旧すると、先ドライブとして利用する折に初期化からの操作が必用だとの確認画面が表示される場合があります。
- ・ 確認の上、「はい(Y)」をクリックして下さい。



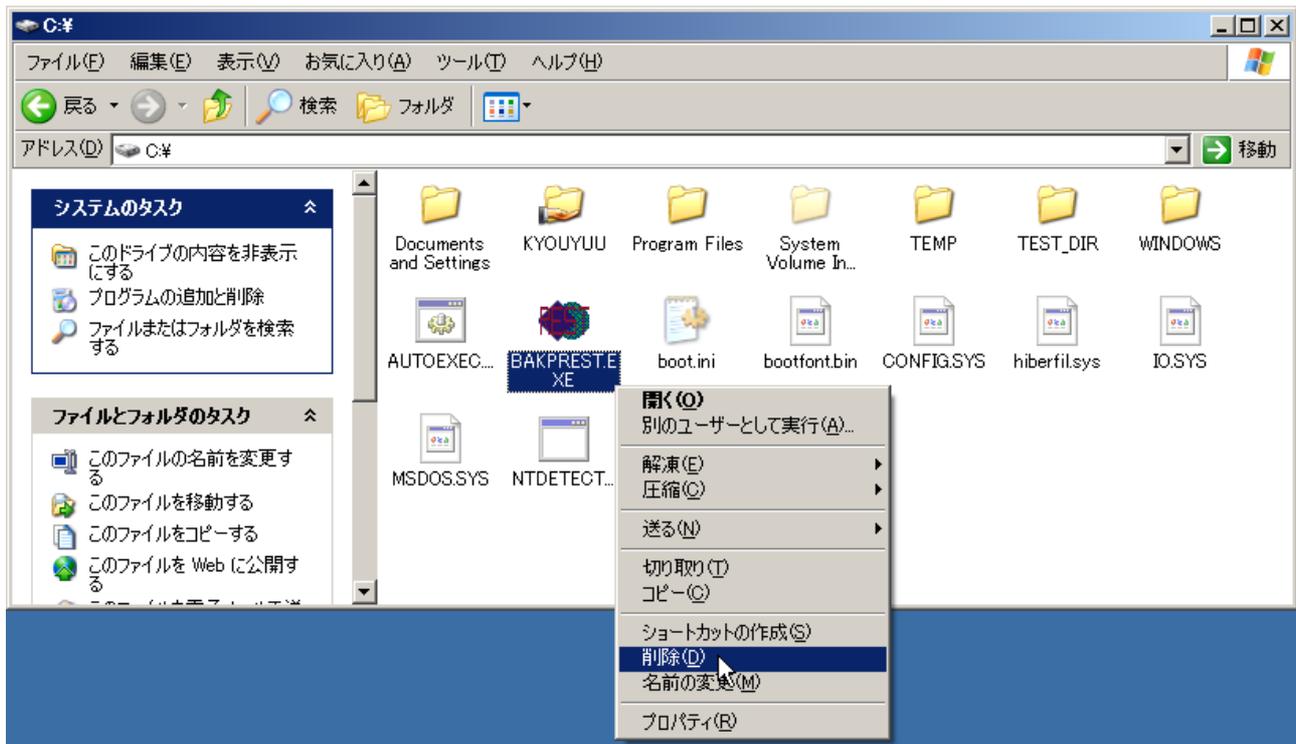
- ・ 上記の様な実行画面が表示されますので、しばらくお待ち下さい。



- ・ セキュリティ処理が終了しました。



- ・ 全ての処理が完了すると上記画面が表示されます。



- ・ N T F S ファイルセキュリティ復旧用プログラムは「ご用済み」です。
先ほど起動した「BAKPREST.EXE」を削除します。
- ・ マイコンピュータで、「BAKPREST.EXE」を右クリックします。
- ・ 現れたメニューから「削除」をクリックします。
注意：間違うと必要なファイルを消してしまいます。
削除するファイル名を間違わないよう十分ご注意ください。

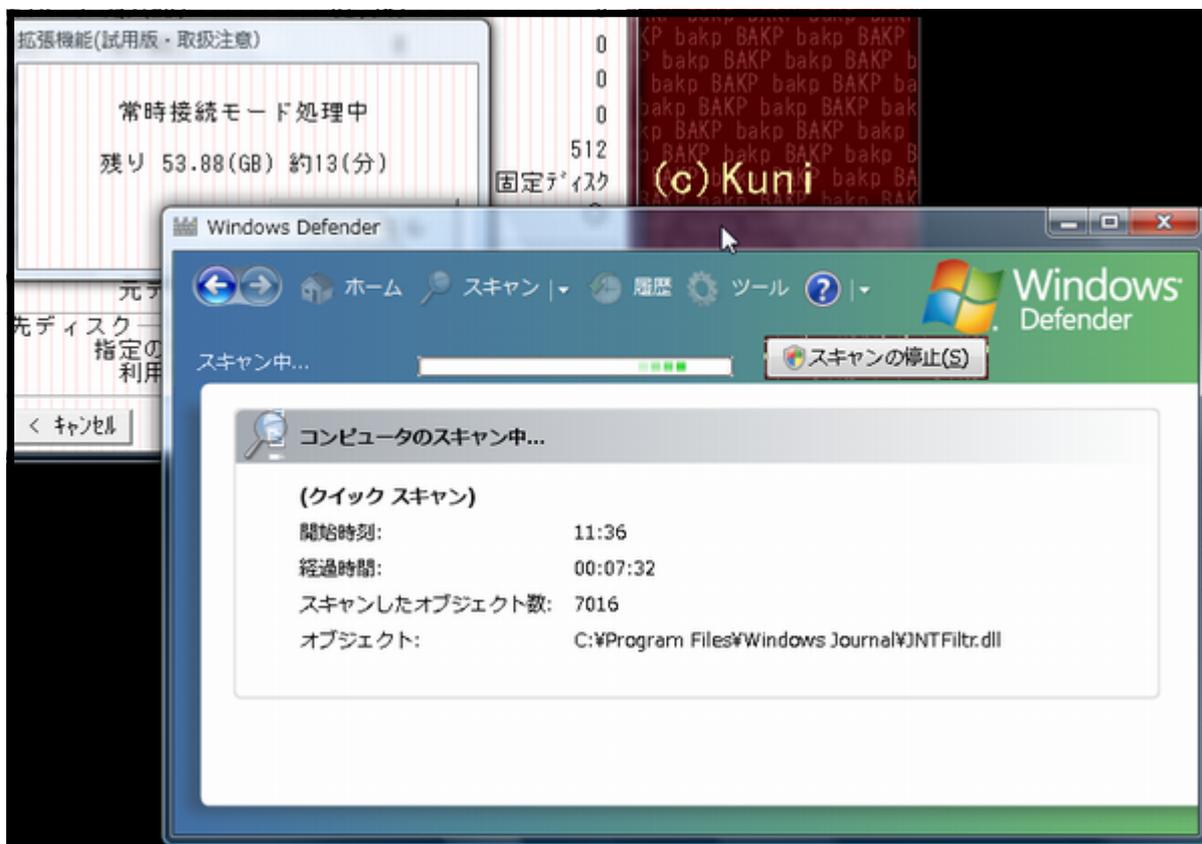


- ・ ファイル削除の確認
確認画面が表示されますので、ファイル名を確認して「はい(Y)」をクリックして下さい。
- ・ ログの確認
BAKPREST.EXE によりログ(BAKPRLOG.TXT)が作成されている場合は、ログをメモ帳等で確認の後、削除して下さい。

5 . 失敗談

バックアップ中、勝手にソフトが起動しました。

- ・スケジュールで起動するソフトには、十分注意して下さい。
- ・事前にスケジュールを停止・変更するか、スケジュールの無い時刻にバックアップする事を推奨します。



バックアップ中、勝手に起動したソフト

ご苦労様でした